【事業名】アラメ及びオオバモクの分布北上の実態解明及び藻場造成の可能性の検討
【申請者】北里大学 海洋生命科学部 羽生田研

目的

温暖化に伴い分布を北上させたと考えられているアラメ（やオオバモク）の生育実態や遺伝的特性を明らかにすると共に、これら2種を用いた藻場造成の可能性の検討。

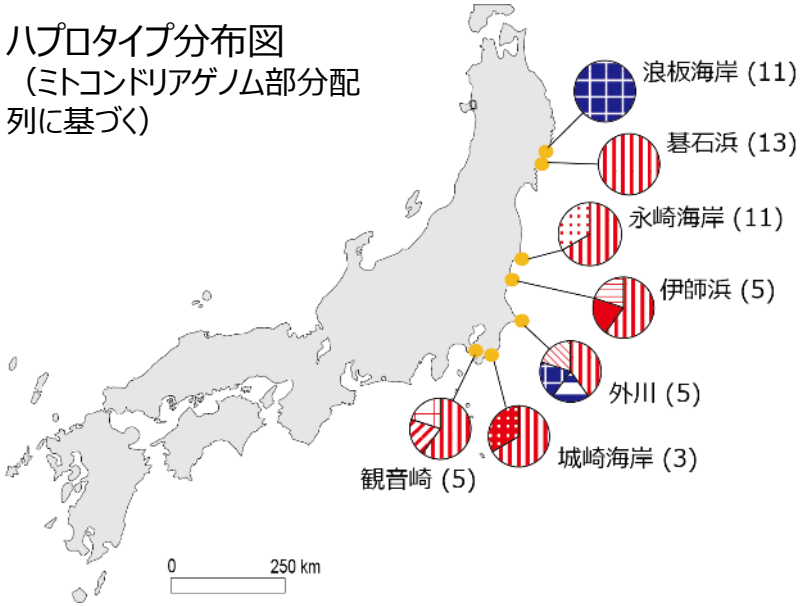
内容

〇アラメの調査採集
（神奈川県横須賀市、岩手県大船渡市、千葉県銚子市、
千葉県鴨川市、茨城県十王町、福島県いわき市内）
〇採集した個体の遺伝子解析

結果・効果

〇2024 年12 月に大船渡市波板海岸で確認されたアラメ様藻体がアラメであることが遺伝的に同定された。
〇太平洋に分布するアラメ集団が遺伝的に大きく2つのグループに分かれることが明らかとなった。
〇本研究の結果は、アラメを利用した藻場造成に際し、集団内の遺伝的多様性をどの程度確保すべきかを検討する資料として非常に重要であり、今後アラメを利用した藻場造成の試みが期待される。

ハプロタイプ分布図
（ミトコンドリアゲノム部分配列に基づく）



調査研究

【事業名】豊かな海の実現に向けた港内水中塩素の実態解明
【申請者】神戸市立工業高等専門学校

目的

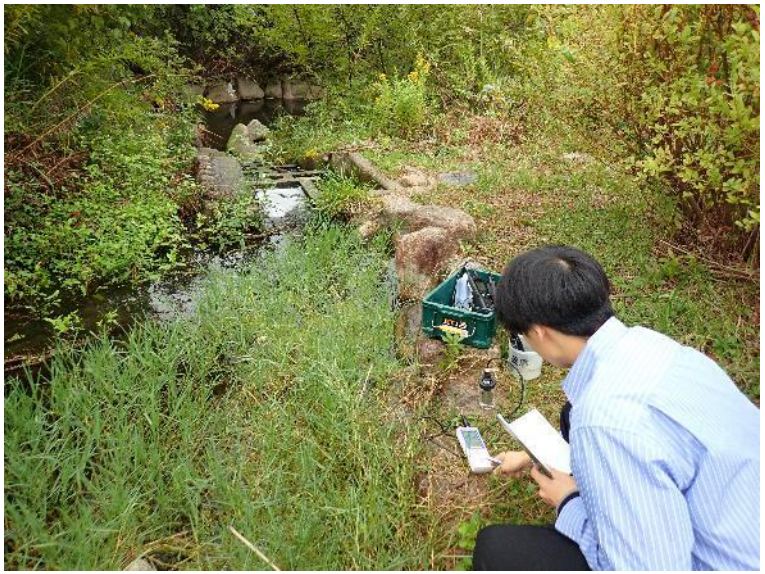
瀬戸内海の港内において「豊かな海」施策で投入した窒素を損失させる可能性がある残留塩素・栄養塩等の実態を明らかにする。

内容

兵庫県南部沿岸とその流域を対象に河川および沿岸域における残留塩素濃度の実態と、pH，DO，EC，水中・大気中のCO_2濃度との関係を整理した。

結果・効果

〇残留塩素濃度は地点や調査日により大きく変化し、常に一定の濃度で存在する背景値ではなく、時間的・空間的にばらつきながら現れる指標であることが判明した。
〇高い残留塩素濃度が残存する条件では、酸素消費を伴う過程とCO_2生成を伴う過程が並行して進行しており、高い残留塩素濃度の環境下では、それらの過程が相対的に抑えられる可能性が示された。



調査研究